



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21 年度 RI テーマ
Rotary Opens Opportunities

国際ロータリー会長
ホルガー・クナーウ

Weekly Bulletin

30th anniversary

藤枝南ロータリークラブ 会報

例 会：毎週金曜日
会 場：小杉苑 藤枝市青木 2-35-30
T E L：054-641-3321

事務局：藤枝商工会議所内 藤枝市藤枝 4-7-16
T E L：054-646-3919 F A X：054-643-2000
E-mail：jimukyoku@fujieda-south-rotary.jp

2020-21 年度
会長：松浦正秋 副会長：竹田敏和 幹事：鈴木健夫 副幹事：望月 誠

例 会 第 1 3 8 1 回： 通常例会/小杉苑

ソング 君が代、奉仕の理想 : ソングリーダー 大村和宏君

原点回帰

■ 会長挨拶 松浦正秋君



本日は、志田ガバナー、法月ガバナー補佐、寺戸地区幹事をお迎えしてのガバナー公式訪問例会になります。RI や地区の方針などをご説明いただきます。充実した会になればと思います。

一昨日、日本の新しいリーダーが決まりました。新しいスタッフと共に、コロナ禍で閉塞感の漂う今を打破していただきたいと思います。

人間を含めて多くの生物は、個体が複数集まり群れを作ります。それは、大きな集団を作り、生存のための環境の向上を図るためです。餌を効率よく確保し、繁殖、子育てなども効率よく行うためです。このように集団が出来るとそれを統率するリーダーが必要になります。群れがきちんと統率されれば、群れを大きくし、中での争いも少なくすることができます。群れの中で強さ等により上の個体から順番に食物にありつき、繁殖も順番に行うようです。動物の集団の中で、個体間の闘争によって相互の優劣の順位が決まり、それによって全体が秩序づけられ、このトップがリーダーになります。

人間社会の様々な集団にも同様にリーダーがい

ます。リーダーは組織の目的実現のため、構成員の力を引き出し、課題を克服し、目的の達成に導き人とあります。この会の長に個体の強さでなかったのではありませんので、多くの人と相談しながら、この一年を皆様と共に楽しい時間としていかなければと改めて感じた今週です。

■ 幹事報告 鈴木健夫君

熊本豪雨災害支援の御礼とハイライトよねやまを回覧いたします。

■ 出席報告 数野晴紀君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
40 / 51 78.43%	49 / 51 96.07%

(1) 欠席者 (事前連絡とメイクアップをどうぞ)

- 阿井君 ○伊藤彰君 ○江崎君 ○加藤君 ○桑原君
- 佐野博君 ○中村君 ○中山君 ○村松章隆君
- 村松章典君 川口君

(2) メイクアップ者
渡邊博文君 (掛川 G)

食事準備数	食事提供数	残	累計残
46	45	1	12

パーフェクト例会数 😊😊

欠席連絡は、当日朝10時前までにお願いします

■ スマイルBOX

数野晴紀君

・志田ガバナー、法月ガバナー補佐、寺戸地区幹事 本日の例会 よろしくお願ひします。

松浦正秋君

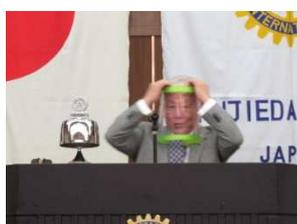
・100%ありがとうございました。ツナ缶は静岡県が全国99.7%の生産だそうです。

高杉光洋君

スマイル累計額 244,000円

■ ガバナー挨拶

志田洪顯様



「今年度の地区運営方針説明と、ガバナー・地区幹事交代についての報告がありました」



2020年9月吉日

藤枝南ロータリークラブ
会長 松浦 正秋 様

国際ロータリー第2620地区
ガバナー 志田 洪顯

ガバナー公式訪問の御礼

謹啓

秋冷の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ガバナー公式訪問に際しては、ご多用のところご協力いただき、誠にありがとうございました。ガバナーとしての責務の一つを果たすことができました。

今後ともご支援・ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

時節柄お身体大切にお過ごしください。またお会いできる日を楽しみにしております。

謹白

例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
10/2(金) 第1383回	研修リーダー	理事会
10/9(金) 第1384回	会員卓話	小杉苑
10/16(金) 第1385回	職場訪問	藤枝農産加工所
10/23(金) 第1386回	会員卓話	小杉苑

■ 今週の一言

望月誠君



思い出の旅行は、22年前に家族でかけた北海道であります。到着してまず、初めの観光地がノーザンホースパークであります。

なんて雄大な大地なんだと驚きました。次にイルカ、クジラのウォッチングは船に乗り観賞をするのですが、イルカ、クジラが近づいてくると独特なおいが漂いました。特にクジラを近くで見る事は初めてでありました。

道路には左右にポールが経ち雪が積もっての道路がわかるように交通安全の配慮がされていきました。静岡では考えられません。

登別では、地獄谷、登別クマ牧場、また富良野、小樽運河の散策など忙しくも楽しかったと記憶があります。最後の日にはガイドさんのお勧めで、子どもでも入店が可能な居酒屋で北海道の味覚を堪能しました。

北海道を離れる当日には、早起きをして、家族でホテルの自転車を借り、北海道大学の校内を散策しました。

私の大学は東京の品川区であり本館、講義棟、実習棟、大学病院で囲まれた、環境であり、キャンパスも狭く羨ましく思いました。北海道大学はこれぞ大学キャンパスと見せつけられました。

「ボウイズビーアンビシャス」の名言を残した、クラーク博士の銅像を探したのは、言うまでもあ

りません。

4日も旅行をしている子どもたちは、他家族のお子さんたちと仲良くなり楽しそうにしていました。また、ガイドさんとも仲良くなり、お別れ際に記念撮影をしたのを記憶しております。

やっぱり、北海道、でっかい道の1言につきます。余談であります。私が好きな作家の1人で渡辺淳一氏も北海道出身で彼の作品は浪人時代から大学生時代に読破しております。

コロナ禍が早く終息して、また、家族での思い出旅行をしたいと思います。



志田ガバナー・法月ガバナー補佐・寺戸地区幹事